

大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第14回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和3・4年度 第14回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和5年2月7日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 3階 集会室2			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	青山 明子	松浦 好美
	大場 貴弘	小野 英次郎	金子 正	柴田 静
	宮嶋 祐紀子	相澤 あゆみ	小松代 菜央	橋本 朋子
	区事務局：土岐、西澤、親跡、木村、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・前回回収分ご意見カードについて <p>(2) 地域課題の検討(地域生活部会のまとめ)</p> <p>ア 報告書の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「成人期・高齢期の共通課題(ページ2)」 →障がい特性の理解、その人自身への理解、という2つの視点による理解がすすむことで、10年後の理解者・支援者が増えることを目指す。 →サブタイトルより、(町会等)の文言は削除する。 ●「1. 障がいの特性の理解(ページ3)」 →理解啓発をキーワードに、カテゴリー分けを行いまとめた。 →教育について、具体的にアクティブラーニング等が挙げられる。 →地域について、障がいを知る機会を作り、それを継続していくことが大切となる。 →(公共より)警察との連携では、トラブルがあった際など、特性を理解しておいてもらう等がある。 →(その他より)支援者は、その人自身の特性も理解しておく。障がいを大きな括りで捉えるのではなく、特性も見えていく。それらも踏まえ人材育成も行っていく。 ●「1. 障がいの特性の理解(ページ4)」 →教育について、具体的にはアクティブラーニング的なことを実施していく。大人へ障がいの理解を啓発していく。 →公共スペース③について、歯科医師会とも連携していくことも一つ。神戸市営地下鉄・市バスが取り組んでいる啓発ポスター以外にも、山陽電気鉄道でも取り組みがある。手をつなぐ育成会が、協力を携わった経過がある。 ●「2. その人自身への理解(ページ5)」 →推進プランのなかでもSDGsの視点を取り入れられている。 持続可能という点で、日常に溶け込むという視点が重要。 →日常に溶け込むという表現に違和感があるため、別の表現を検討。 日常に“溶け込む“から”溶けあう“に変更。 ●「まとめ(ページ6)」 →任期年度で抽出課題・テーマを終わらせるのではなく、継続的に取り組んでいく。最終的には、幼少期・学齢期と同様に、理解啓発という部分に行き着いた。 ●今回の意見をもとに報告書の修正を行う。その後、事務局から委員へメール送付を行い、確認をしていただく。 			

イ 令和5・6年度任期に向けて

●本部会委員は支援者や保護者が多いが、今後は当事者委員の参加も多くなればよいと思う。

→要求・要望の場ではないことを共通認識化していくことが大切。

会長より、そのあたりを明言してもらうことも一つだと思う。

様々な意見を共有し知り合うことで、理解啓発をより進めていく。

→部会委員の構成が、当事者参加がしやすくなるように引継ぎ事項へ含める。

●神戸市の啓発ポスターの取り組みを大田区でも取り入れることを、検討できないか。

→行政の関係機関の場合、実現可能性が高いが、民間の鉄道会社に協力を仰ぐ際の予算等を考えると難しいのではないかな。

→民間の鉄道会社の場合、双方に利益があることで可能になるため、今回の場合は難しい。区へこれらの取り組みを提案していき、区が考えるきっかけをつくっていく。

→事業所でポスターを作成してみた。自身の子どもは、普通学級に在籍していたが、いじめ等もあった。特別支援学級が新設され、転籍する際に、普通学級のクラスメイトに自ら挨拶したことで、障がいとその人自身の理解を通して、生徒の意識が変わるきっかけになった。その際原稿をポスターにしてみた。

→今年度任期より出た様々な情報を整理して、今後の部会活動（ワーキンググループ含む）へつなげていきたい。

→今年度出た理解啓発の視点は、整理しながら次年度へつなげるよう引継ぎ事項へ含める。

(3) 部会委員より感想

●楽しい部会活動であった。次年度も同様の流れで続けてほしい。成果がすべてではないが、協議会として何か取り組んだという成果があればよいと思う。行政や協議会という垣根を飛び越えて取り組んでいきたい。

●新たな気付きもあり勉強になった。啓発ポスターなど、費用が発生しない形で取り組んでいければとも思った。

●2年任期により、十分な話し合いができたことを実感した。次の任期にもつなげていきたい。関係性を大事にしながら、何かあった際には相談し、10年後を見据えた活動ができればと思う。

●3障がいにこだわらず、皆が意見を出し合えてよかった。

●協議会って何だろう？という所からのスタートであったが、このような会があることで、子どもたちが地域で安心して生活を送れていたと感じた。多くの意見を身をもってつなげていきたい。

●障がいのなかの人権の部分にルーツがある。地道なところから、変えていくことが必要だと思う。

●協議会が、日頃の支援から一度立ち止まって考える機会になっていた。普段見逃していた気付きを得ることができた。小さなことをコツコツ積み上げていければと思う。

●人権擁護・虐待防止の取り組みをしっかりとやっても虐待が発生してしまう施設がある。

何故なのか、アプローチのあり方を考えていく必要がある。一人でも多く部会の取り組みをわかってくれる人がいれば、良いと思う。

今後について、協議会は成果物を求める場ではないがラッピングバスが区内で走っている姿が見れたらとも思う。

	<ul style="list-style-type: none">●初めて、協議会へ参加した。支援者、保護者と仕事の枠を越えて、課題に向けて熱く考えてくれる会であることを実感した。保護者にも知ってもらい、10年後の暮らしやすさを考えていきたい。 <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none">●障害者発達支援協会による研修会「地域生活支援拠点を知ろう」について情報提供。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------